

三重県新エネルギービジョン(中間案改定版)の取りまとめにあたって
委員からいただいたご意見

ページ 項目	ご意見	備考
<p>はじめに</p> <p>(第1章)</p> <p>東日本大震災後のエネルギー需給の動向</p> <p>エネルギー対策の転換期</p> <p>(第3章)</p> <p>新エネルギー導入の課題</p> <p>(第4章)</p> <p>新エネルギー導入を促進させるための方策</p> <p>(第5章)</p> <p>洋上風力発電の実証化に向けた調査研究</p>	<p>(要旨)</p> <p>現在、国で今後のエネルギー政策について議論されているが、政府の政策と県の計画とは齟齬がないよう整合を図ることを願う。</p> <p>整合を図りながら検討することを明記すべき。</p> <p>原子力、火力、水力等と上手くバランスを取りながら、再生可能エネルギーの導入促進を図ることが重要であることを追記すべき。</p> <p>大規模集中型のシステムは不要で、自立分散型のエネルギーシステムのみで、エネルギーのすべてを賄えるという誤解を招く。</p> <p>供給安定性、環境性、経済性に優れた大規模集中型システムは、電力供給において重要であることから、大規模集中型システムと自立分散型エネルギーシステムを組み合わせていく旨の表現に見直すべき。</p> <p>新エネルギー普及に伴う系統安定化対策のためのコスト負担等の課題について、県民へ十分に説明するプロセスが必要である。</p> <p>是非とも、県の役割として、県民へ説明するプロセスについて記載いただきたい。</p> <p>新エネルギー導入目標を達成するための具体的取組の記載がないため、具体的な内容に見直すべき。</p> <p>着床式の記述がない。着床式も、日本の海岸に適し、なおかつ経済性を追究した構造の研究等、研究開発等を期待する部分もあるため、併記してはどうか。</p>	

ページ 項目	ご意見	備考
県の果たす役割	<p>県の支援内容を明確にするため、“補助金等による”支援と追記する。(バイオマス利用、住宅・事業所等の太陽光発電等の導入促進)</p>	
<p>(第2、5章) 洋上風力発電について</p> <p>(第5章) 戦略プロジェクト</p> <p>(第4章) 導入目標</p>	<p>三重は確かに海域が広いのですが、同時に豊かな漁場でもあり、漁業また豊かな自然を活用した観光が盛んです。</p> <p>こんなところで、洋上風力というのは適切ではないと思われます。</p> <p>実験は他の県で実施していただきたいと思います。</p> <p>この中の地域エネルギー創出プロジェクトのところ が重点プロジェクトだったところかと思うのですが、 3に風力が入っていることに対しては反対です。</p> <p>基本的に最初に固定観念からの脱却とあるにも関わらず、相変わらず過去のをそういった位置づけにするのは少しも脱却していないと思います。</p> <p>これまでにすすめられてこなかった、もしくは大変小規模である意味実験段階といってもよかった1、2、4に関しては問題ないのですが、風力に関しては洋上は三重県に適さないと考えているので、入れる必要がないと思います。</p> <p>前回見直しの検討に入っていた風力の導入目標量が 多すぎるので現状のままをお願いします。</p>	
<p>(第2、5章)</p> <p>(第5章) 新エネルギー関連産業等育成プロジェクト</p>	<p>第2章「3. 低炭素社会の実現への貢献」の項目を受ける形でのアウトプット(第5章)の記述が不明確。</p> <p>5章に家庭・事業所の省エネ等を含めた例えば「低炭素化に向けた促進プロジェクト」として項目建てが必要ではないでしょうか。</p> <p>スマートコミュニティの実現に向けた調査研究について、依然から申し上げているとおり、供給力だけを考えるのではなく、限られた供給力で如何にエネルギーを使うか、需要面を考える必要があり、従って、単なる一プロジェクトではなく、大項目として位置づけるべきではないか。</p>	

ページ 項目	ご意見	備考
<p>(第2章) 産業振興</p> <p>(第4章) 新エネルギー導入を促進させるための方策</p> <p>(第5章) 洋上風力発電の実証化に向けた調査研究</p> <p>プロジェクトの 仕組み</p>	<p>県内中小企業に限定する必要はありますか。 中小企業を陽に表すのは良いと思いますが、大企業も含めた幅広い記述にしたほうが良いと思います。</p> <p>中小企業に限定する理由は。企業間のネットワークやサプライチェーンを強調してはいけませんか。</p> <p>浮体だけに限定しないほうが無難。</p> <p>図5.4、図5.5のそれぞれの囲みの点線が、何の範囲であるかを示したほうが良い。</p>	
<p>(第5章) 新エネの各導入プロジェクト</p> <p>(第5章) 家庭における高効率な省エネ機器</p> <p>企業におけるコージェネの導入促進</p> <p>(第4章) 目標値</p>	<p>「県が果す役割」について、改定前と比較して全般に抽象化されております。改定前のような具体的な記載がよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>1) コージェネの導入 前回 P29「省エネ診断の実施、国の補助金の活用」</p> <p>3) クリーン自動車の導入 前回 P30「トラック事業者に対する天然ガス自動車の導入を支援」</p> <p>「ヒートポンプ式などの高効率給湯器」を「ヒートポンプや燃料電池など」とできないのでしょうか。</p> <p>燃料電池は、当面、家庭用を中心とした普及拡大が求められているので家庭用に記載するのが適切と考えます。</p> <p>企業の「コージェネレーションや燃料電池など」の記載について、燃料電池はコージェネレーションの一種であるので、誤解を招くことが懸念されます。</p> <p>企業活動においては、コージェネが主流となっております。</p> <p>震災を受けた今回の改定の中で、エネルギーセキュリティに関する概念の反映をお願いします。</p> <p>⇒ エネルギーの多様化、分散化や節電の視点を意識した、ヒートポンプの導入目標を見直し</p>	

ページ 項目	ご意見	備考
P 7 4. エネルギーと 産業を複合させ た産業振興や地 域づくりへの貢 献	洋上風力発電やメタンハイドレートを三重県で検討する部分が唐突に感じるので、これらの次世代エネルギーが三重県の地域資源（例えば、メタンハイドレートは熊野灘沖にあるなど）として検討可能な資源である旨を記述した方がわかりやすくなるのではないかと。	